

第70回 保守管理検討会 議事録

1. 開催日時： 2022年8月31日(水) 13:30～16:20
2. 開催場所： 一般社団法人 日本電気協会 4階 A,B会議室 (Web 併用会議)
3. 出席者： (順不同, 敬称略)
出席委員： 関主査(九州電力)*¹, 中川副主査(四国電力)*², 牧原副主査(東京電力HD)*²,
大野(日立 GE ニュークリア・エンジニア), 喜多(日本原燃), 齋藤康(電源開発), 鈴木(中部電力),
仲井(元日本原子力研究開発機構), 西野(関西電力), 藤井(北陸電力),
堀水(原子力安全推進協会), 峯村(東芝エネキシステム*), 宮道(中国電力), 宮原(東北電力),
米澤(日本原子力発電), 脇本(日本原子力研究開発機構), 渡辺(北海道電力) (計17名)
代理出席： 松澤(三菱重工業, 和地委員代理) (計1名)
欠席委員： なし (計0名)
常時参加： 伊藤 (日本エヌ・ユー・エス) (計1名)
事務局： 葛西, 田邊 (日本電気協会) (計2名)
* 1 : 議題(1)で主査に選任。
* 2 : 議題(2)で副主査に指名。

4. 配布資料：別紙参照

5. 議事

事務局より、本検討会にて私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないことの周知徹底が行われた後、議事が進められた。

(1) 代理出席者、委員定足数、常時参加者、説明者、オブザーバ、配付資料の確認、主査選任 他

事務局より、代理委員1名の紹介があり、現在主査不在状態であるため、検討会委員全員賛成で承認を得た。出席委員数は現時点で代理出席者を含めて18名で、分科会規約第13条(検討会)第15項の決議の条件である委員総数の3分の2以上の出席を満たしていることが確認された。また事務局より、資料No.70(1)-1-1に基づき、下記新委員2名の紹介及び挨拶の後、常時参加者1名の紹介があった。

- ・ 関 委員 (九州電力)
- ・ 牧原 委員 (東京電力HD)

事務局より、資料No.70(1)-1-2に基づいて、主査選任について説明があり、互選として委員より主査の推薦をお願いしたいとの話があった。中川委員(四国電力)より、関委員(九州電力)を主査に推薦するとの発言があり、分科会規約第13条(検討会)第3項に基づき主査に選任するかについて、分科会規約第13条(検討会)第15項に基づき、挙手により決議の結果、全員賛成で承認された。関主査の挨拶の後、分科会規約第13条(検討会)第2項に基づき関主査より、中川委員(四国電力)、牧原委員(東京電力HD)2名を副主査として指名するとの発言があり、その後副主査より挨拶があった。

(2) 前回議事録の承認

事務局より、資料No.70(2)に基づき、前回議事録案の紹介があり、最終議事録とすることについて

特にコメントは無く、全員賛成で承認された。

その後事務局より、資料No.70(2)-参考1から参考3に基づき、前回検討会の後実施されたJEAG4803方針検討タスク及び運転・管理分科会実施内容について説明の後、資料No.70(4)-1-1から資料No.70(4)-1-3に基づいて、JEAG4803廃止に対する活動状況について説明があった。

- (3) JEAC4209/JEAG4210 改定に向けた検討について、(5) 長期運転体系検討タスク(フェーズ2)について事務局及び各委員より、資料 No.70(3)シリーズに基づき、JEAC4209/JEAG4210 改定に向けた検討について説明があった。また、その議論の中で事務局及び委員より、資料 No.70(5)シリーズに基づき、長期運転体系検討タスク(フェーズ2)について説明があった。

a. JEAC4209/JEAG4210 改定に向けた検討について(その1)

主なご意見・コメントは下記のとおり。

- ・ 本日の資料 No.70(3)シリーズの資料は本日初めて各委員に示すのか、それともメールで事前送付されているのか。
- 新委員以外についてはメールで事前に送付済である。
- ・ 構成管理は次回改定に対する大きなトピックスとなるということは理解したが、当然のことながら各社で運用とかが違ったりもするので、各社がどういう構成管理をしているのかということ、事前に調べた方が良いということか。各委員から意見を伺いたい。
 - ・ 新検査制度の中で、構成管理の事を規格としてどの様子に書こうかとした際、今でも JANSI で構成管理のガイドラインのワーキングが実施されているが、この活動には各電力会社が出席しており、JANSI のガイドラインがどの様なものかというのが見えると思うので、構成管理全体ということになると、そこが基本となると思う。規格に関して言えば、JEAC4111 と JEAC4209 に其々構成管理が記載されており、全体を網羅するような表現というのが、JEAC4111 側にあると、頭の中で整理し今後考えていけば良いと思う。
 - ・ 2021年版の改定の時に分科会等の方々からコメントを頂いており、次の改定に持ち越されているコメントについては、今説明してもらったような内容で、基本的には既に反映されているものが多く、先程の説明の中だと、非物理的劣化の解説を入れる所と、巻頭言の書きぶりが変わるのでそれを序論に入れるとか、一番大きなトピックスである構成管理を入れるという対応を実施すれば、委員からのコメントの対応はとりあえず終わり、後はそれ以外の部分は、過去の主査より課題として残されているものを順次反映していく形になる認識であるが如何か。
 - ・ 大枠は合っていると思うが、原子力規格委員会の関村委員が何をお考えの上で意見を述べられたかというのは、資料 No.70(3)-参考3 から文字的には分かるが、必ずしもそれをやれば答えなのだということでもないし、規格改定時に中間報告を実施するが、その時に話が出るかもしれないし、それに対しての回答は検討会で検討を進めているというのでも良いかもしれない。よって、現状はこれで良いと考える。
 - ・ 資料 No.70(3)-1 の1頁目の下の方に第66回保守管理検討会の事が書いてあり、長期サイクル運転及びオンラインメンテナンスなどの発電所運用の変更に合わせて改定するとあるが、オンラインメンテナンスは ATENA の中でも姿を見せていないが、長期サイクルについては ATENA でワーキングを設置している。これは今の保守管理の枠組みの中で運転サイクル延長の申請をし

ていくイメージであるが、長期サイクル運転で JEAC4209 及び JEAG4210 が変更になる箇所の当たり所はあるのか。今の枠組みで出来上がっているような気がしているが、課題として見えている部分があるのか。

- ・ 原子力規制庁側からも、オンラインメンテナンスなど関心を持っている事項が幾つかあり、福島事故以前からある JEAG4803 をもう一度見直すのか、廃止するのかという動きが当時あり、JEAC4209 及び JEAG4210 の変更の可能性もあったかもしれない。今は課題としては具体的には見えて無いが、目標として 2021 年度に発刊したものを 3 年後にもう 1 度改定しようということであると考える。
 - ・ オンラインメンテナンスというのは、前回の改定でも日本機械学会で実施している「リスク低減のための最適な原子力安全規制に関する研究会」を引用しており、方向としては、安全性、経済性を合理的に追及するという意味から必要な項目であると理解している。長期サイクル運転も法令では 24 か月までとなっているが、まだこの電力事業者も実施していないものの、将来的にはそこも目指すものと考えられる。すぐ実施すべきものかというところでもなく、外部の状況を見つつ着実に検討を進めていかななくてはならないのはこの 2 項目ではないのかと考える。
 - ・ 前回の改定の中で適用範囲について、供用開始前から適用することも出来ると、廃炉処置段階も適用することが出来ると、広げている。適用範囲は広げたが、中身はリスクをちゃんと評価するとかが書いてありつつも、保守管理指針としてはそれに関連することを書けてない。適用範囲を広げた事を踏まえた記載の充実化とか、リクエストがあっても良いのではないのか。廃止措置プラントの廃止初期段階では構成管理に関して場合によっては、日毎にプラントの状況が変わっていくので、適用するのが難しいところもあると考えている。リクエストがあればこの場で議論を実施するのが良いと考えている。
 - ・ 建設中の原子力発電プラントは何基もあり、廃止措置中のプラントも何基もあるので、そのようなニーズもあると感じた。
 - ・ 資料 No.70(3)-1 にある「1 年は検査制度の集約状況などを調査し、2 年後ぐらいをターゲットにして開始し、3 年後ぐらいに発刊のようなイメージ」について、2020 年 11 月 19 日を起点にスケジュールが動いているという認識で良いのか。そうすると発刊が来年とかになってしまうイメージなのか。
- その記載の通りにしなくてはならないということでもないもので、あくまでもその当時のイメージとしての話であると考えている。
- ・ 定期改定が 5 年に 1 度あるので、その 1 年前には完成していると良いという考え方を書いた資料なので、この通りに作業を進めるものでもない。よって、新しい体制のこの組織で何をするかをしっかりと決め、方向性の幹を立てるために、前回改正時の分科会委員や原子力規格委員からのコメントは横に置いておきつつ、今回の幹は何なのかを議論して決めて、それについて方向性も決めて、そうするといつ位に改定となるという、スケジュールを設定して進めていけば良いと考える。
 - ・ 本日の時点で幹を決めるまでには至っていないので、この場で方向性は示せないが、イメージは理解した。以前まとめて頂いた課題から、新たに大きな課題は発生していないという認識なので、もう一度改めて資料を見た上で、何処から始めるかを考えなくてはならないと認識した。
 - ・ 後の議題で資料が準備されているようなので、先に事務局から説明した方が良いと思うが、日本

原子力学会から原子力規格委員会に長期運転体系タスクへの協力依頼が来ている。原子力発電所は今の法律だと 60 年が運転の限界であるが、米国と同じように、80 年とか現実には可能なのではないかという中で、保全についてはどうなるかという所は ATENA ガイドで先行しているところもあるし、それに関して JEAC4209 の保全のプロセスの部分で何かないかということである。本当はそういった所に幹を立てて検討していく必要があり、以前も発言させてもらったが JEAG4803 について議論している暇はなく、長期運転体系タスクは学協会トップ間でやり取りを実施され、分科会バイパスでそんな話がされて権利を失っているように思えてしまう。検討会に実がないところにリソースを奪われるのではなく、もう少し前向きな所にリソースを投入していかなくてはならないということ、議論していき良い方向に進めばと考える。

b. 長期運転体系検討タスク(フェーズ 2)について

- ・ 長期運転体系タスクについて、フェーズ 1 として参加した素直な感想を言うと、日本原子力学会が何をしようとしているのか、何を考えているのかがはっきりしなかった。何となく原子力学会の高経年評価実施標準と保守管理 JEAC4209 を一緒にしたいようなイメージがある。もう一つは新しい EQ(機器性能保証)の概念を扱いたいという印象を受けた。明確に 80 年運転のために高経年評価という話では全然なかったし、フェーズ 1 では保守管理との関係も長期運転を究明する所はなかった。そういう意味で目標を探しながらレポートを纏めていた雰囲気であるが、保守管理検討会として報告書レビュー等をした。それともう一つは原子力学会側のメンバーが保守管理の規程とか指針を読んでないという印象を受けた。
- その通りであると思っており、目的を探すような会議で、保守管理の規程とか指針を理解していないような印象もある方々であり、フェーズ 2 では何を実施するかという色々な分野の勉強会を実施し、勉強会の中で意見を集めてレポートに纏めたいということで、既に PLM 勉強会は実施され、日本電気協会から参加した。次回の勉強会は ATENA ガイド等になると思われる。フェーズ 1 の報告書では SSG-48 との比較から始まり、多くの米国規格と比較されて提言に至っている形になっていたと思うが、本日は当該報告書を資料として準備していない。第 66 回の保守管理検討会では本報告書を扱ったため、検討会後に参考として資料を送付する。
- ・ フェーズ 1 の時には保守管理検討会として参加をして、何か手を動かしたのか。
- 日本電気協会としては、品質保証分科会と、運転・保守分科会が参加した。品質保証分科会からは JEAC4111 改定概要として 2021 版の内容を伝え、運転・保守分科会として保守管理検討会では JEAC4209 改定概要を伝えてある。最終的にフェーズ 1 のレポートに対してコメント依頼があり、各参加者よりコメントを出し、それらが一部反映されたと考えられる成果物が、第 66 回保守管理検討会の中にある資料である。
- ・ 報告書に関して補足すると、原案は PLM 分科会、原子力学会側が作成したが、彼らの思い込みあるいはこうしたいという提言が書いてあったので、他の学会とは言え、こんなことを書いてもらったら困る様な部分が結構あり、そういう所は今の JEAG4210 に影響がないような修正を全部お願いしている。参加する方が良いのか参加しない方が良いのか難しいところであるが、参加すると保守管理検討会にこういうレポートに合意するかと問われるし、参加せずに困る様なことを書かれると悪影響がある気もする。その両方を考えて、フェーズ 2 はフェーズ 1 よりも尚更分からない状況であるが、参加した人に内容を聞きつつ検討した方が良いかと思う。

- ・ 感触としては、他学会トップから書面で依頼がくると断る理由を出す方が難しいのだと思う。
- ・ 断る理由が無いので、主査が出席するか、出席できない場合には代理が1名かと思う。
JEAC4209の次回改定の概要について説明してほしいという要望は良いと思う。
- ・ 説明を伺う限りフェーズ2の参加をするということになると思う。
- ・ 参加することになるかと思うが、おそらくは次回のJEAC4209/JEAG4210改定の幹にならないとも考えられるが、情報は取りに行った方が良く、困る様なことを勝手に書かれても良くないと考える。

c. JEAC4209/JEAG4210改定に向けた検討について（その2）

- ・ 前回の改定は、検査制度ROP対応という、はっきりとした幹があり、それをどの様に対応するかという改定であったと思う。前々回の改定時には、そういったハッキリした幹は明確にはなかった。1つあったのはリスクをどの様に活用するかということであったが、それもぼんやりとしたものでしかなく、幹としてどのようなことをするかということ色々な議論として、電力事業者の考え方とかを出して、それに対して幹を作ったという改定の仕方を実施している。それに結構時間がかかっている。そのような事を踏まえると、次回改定に対して何を改定の方針とするかということの議論を実施するフェーズになっていると思う。
 - ・ 前回の改定、若しくは前々回の改定においては、改定のネタが3役とかから提供があった上で各社から意見を集めたのか、それとも各社が自発的に意見を出したり何かこういう問題点があると上げてきたのか。
- 7年前に主査を引き継いだ時には、既に改訂案の素案が出来ていて、その次の改定案を実施すると言われ、大学の先生からリスク情報の話があり、それに関しては、東大の関村先生の宿題という面が多かったので、主査でこの様な改定をしたいと言う基本方針を作成し、それを案として出して、検討会で揉んでその案を、関村先生の所に主査と数名の委員で行き説明し、質問の真意を得てブラッシュアップを実施し、幹を固めるところをきちんと実施し、その後このようにしようということで改定を実施したという記憶がある。従って7年前に一度改定を実施し、2回目に改定した時にも、新検査制度対応と言いつつも、結構色々あった。JEAC4111側との連携もあるので、こういう幹であるという案を作成し、そのたたかれ案を先生方に撒いた上で、また見直すということに注力している。
- ・ 前々回の改定ではリスク制度に関する東大の関村先生からの質問対応があり、新検査制度も関村先生等のコメントがあったかもしれないが、今時点でこの様なものが出ているというトピックスはあるか。
- ・ 構成管理に関して原子力規格委員会のコメントでもあるので、しっかり実施しなくてはいけないと思っている。もう1点気にしているのが日本原子力学会の方から原子力規格委員会委員長の方に協力依頼が送られると思っているが、今の原子力発電所で何を狙っているかということ、原子力発電所の寿命を80年にしようとしているが、ATENAガイドは80年ではなく20年延長の1回において審査期間の長期停止におけるタイマーストップについてを持って行き上手く行かなかった。米国もピーチボトムなどで80年のライセンスを取得したが政権の影響でひっくり返っている。こういう状況において日本で80年ちゃんと出来るのかといった時には、ちゃんと高経年評価も実施しているし、メンテナンスでちゃんと管理は実施され、必要な取替を実施するので大丈夫

であるということがない限り、我々が目標とする稼働率の向上という所には向かっていかないと思う。そういう将来を考えていった際、避けて通れないミッションであると思っているので、議論は今の内から行っておかないと、最後になって日本電気協会は保全で何を反映したのか、何をやっていたのか、と言われるのは目に見えている。そのため、マイナスの志向で考えているとしっぺ返しがくると思う。過去7年間を見るとかなり先生方に怒られながら進めてきたので、そうなる前に我々として何をやっていかななくてはならないかということを実際に議論していけば良いかと思う。

- ・ 今の意見は、プラント寿命 80 年の議論が出てきた時に、保守管理検討会は高経年化も踏まえてできる地盤が出来上がっているのでは、直ぐ導入しても全然大丈夫という様な取り組みを今の内から実施しておけば、制度が変わってもすぐに対応できると将来を見据えてやった方が良いという意見か。
- それは個人の意見であるが、そういうことも踏まえて進めていけば良いかと考える。
- ・ その他にも意見がある様であれば、メール等で意見を送付してもらいたいと考える。
- ・ 当面は検討会を2ヶ月に1回程度の頻度で実施し、議論が煮詰まるなどしてきた時には頻度を増やす等で進めていきたいと考える。

(4) 運転保守分科会タスク (JEAG4803検討タスク) の状況について

事務局及び委員より、資料 No.70(4)シリーズに基づき、運転保守分科会タスク (JEAG4803 検討タスク) の状況について説明があった。

主なご意見・コメントは下記のとおり。

- ・ 各委員に事前にアンケート結果を配信し、回答頂き感謝する。集約結果としては基本的には JEAG4803 の記載内容の評価結果を受けて、ASME の O&M まで見に行く必要はないというところ、JEAC4209 の次回改定の時に必要であれば最新版を確認していくという認識は各委員同じかと思っている。私も前任の主査からそのように聞いていたが、説明を聞いて認識が違っていたのは、このアンケートは JEAG4803 の廃止を受けて、JEAG4803 検討タスクから話がかかっているのでは、JEAG4803 の記載内容を残すか残さないかという議論になっているが、元々は上位組織の運転・保守分科会から「ASME の O&M を最新知見として確認しておかなくて良いのか」という確認依頼が保守管理検討会になされているという趣旨なのか。
- ASME O&M をウォッチするのは保守のプロフェッショナルである保守管理検討会であるし、分科会から依頼するまでも無く当然しているという認識が前の運転・保守分科会の幹事の判断なので、当然 JEAC4209 及び JEAG4210 に入れられるべき内容があるならば反映しているという認識であった。しかし、2021 年度改訂時にも、その前の改定においても ASME O&M は最新知見として確認していないというのが事実であるし、事務局からもその旨は伝えている。運転保守指針検討会は廃止してしまっているが、ASME O&M をウォッチする組織は、日本原子力学会にも、日本電気協会にも存在しておらず、前回の保守管理検討会では、ASME O&M の情報は電力事業者として適宜情報を得ているとの話が出て、議事録上は ASME の情報を仕入れているようなことも書かれているが、検討会後に前主査が前副主査を介して確認を行った結果「ASME 情報については Section III, XI であり、O&M については入手していない」とのことだった。つまり、日

本で ASME O&M をウォッチしている人はおらず、20 年前であれば運転・保守分科会傘下の運転保守指針検討会が最新知見として確認していた。運転・保守分科会の幹事としては、保守管理検討会がウォッチするべきであると思っており、温度差がある中で、JEAG4803 を廃止していく審議の過程で「ASME O&M を誰が最新知見として確認していくのか」ということ先生方に問われても、答えが無い状態である。そのため、ASME O&M の確認所掌は保守管理検討会か、というのは運転・保守分科会で議論がなされていて、必要であれば見に行くとか、保守管理検討会ではないとか色々な意見が出ていて、現時点では答えが無い。そういう状況である。

- ・ 元々は JEAG4803 のパート E の評価によって、一部のこういう記載を残した方が良いということで、その基は ASME O&M を参考に作ってはあがるが、昔の古い物になっている。そのため、ASME O&M の最新版には JEAC4209 や他の規格などに反映すべき事項があるのではないかということで、保守管理検討会に話がるかもという流れであると思う。しかし、保守管理検討会全委員の意見は、JEAC4209 と JEAG4210 に JEAG4803 の記載を反映する部分はあるかないかということで一致しており、JEAG4803 を受けて ASME O&M を保守管理検討会で見るという義理はないという認識である。立付だけの話だと思うが、JEAG4803 を廃止しに行く検討会が設置され、その中で ASME O&M を見るということもあり得るのか。
- それもあり得ると思うが、現時点ではその検討会は設置されておらず、その様な事を調整するための人が存在していないこともあり、まずは既存の検討会で親和性がありそうな保守管理検討会に声がかかっている。ASME O&M には JEAC4209 と JEAG4210 に対して有益な情報はないという答えが出ていると考えられるが、運転・保守分科会タスクには何らかの回答をしなくてはならない。
- ・ ASME O&M を見る必要はないとする回答もあるようだが、JEAC4209 に対して反映はいらぬとの回答は考えられる。しかし、JEAG4210 に関してはそうはならないとも考えられる。JEAG4803 のパート E の ECCS の性能試験について、運転・保守分科会のアンケートでは、事業者ニーズがあるならば ASME O&M 2020 の OMN も含めて確認して実施した方が良いということ、「3社からニーズがある」ということで、「何らかの指針にした方が良いのではないか、JEAG4210 に入れられないか。」という回答だった。一方、保守管理に関する規程及び指針を作っている保守管理検討会としては「全事業者ともニーズはない」ということで、その回答を分科会タスクが受けると、運転・保守分科会から得られた回答と異なるため、どちらが正しいのかという問題が生じるのを危惧している。
- ・ ASME O&M の確認もしていない状態で「見る必要が無い」というのは、どういう判断なのかと根拠を問われそうなので、少しだけでも部分的に確認してみて必要か必要でないかを判断するのも良いと考えるが、ネックはマンパワーであり、どのくらいのボリュームであるか分かる方がいれば回答を頂きたい。
- ボリュームとして見るべき所はそんなにはないと思うが、保守管理検討会で各事業者に聞いて必要ないということを踏まえて分科会タスクに回答して、分科会タスクでも保守管理検討会では必要ないということで、運転・保守分科会傘下の保守管理検討会以外の検討会が ASME O&M の確認を必要としているか否かは保守管理検討会の所掌外であり、分科会の回答も保守管理検討会の回答も正しいという落とし所になるかと思う。
- ・ 明日 JEAG4803 の検討タスクがあるので、保守管理検討会としては ASME O&M 確認の必要はない

いということで回答しようとする。明日のタスクでは今日の資料をそのまま提示し、事業者ニーズはないということで良いか。

- ・ 資料 No.70(4)・2-1 の回答で必ずしも正確でない記載があるため、各社からの個別の意見は提示しない方が良く考える。
- 資料 No.70(4)・2-1 の主旨を踏まえつつ、その結果を纏めた 1 枚紙を別途作成し説明することにする。
- ・ 明日のタスクで使用する資料については、この後各委員にメールで配信するので確認していただき、意見をお願いする。

(5) その他

次回保守管理検討会は 12 月に定期開催とし、詳細は事務局より連絡する。

以 上

第70回保守管理検討会配付資料

- 資料 No.70(1)-1-1 原子力規格委員会 運転・保守分科会 保守管理検討会委員名簿
- 資料 No.70(1)-1-2 分科会規約第13条（検討会）第2項及び第3項（規約抜粋）
- 資料 No.70(1)-2 保守管理検討会（日程調整）
- 資料 No.70(1)-参考1 運転・保守分科会検討会委員に関する書面審議のお願い（日電協2022 技基第160号）
- 資料 No.70(1)-参考2 運転・保守分科会検討会委員に関する書面審議の結果について（日電協2022 技基第184号）
- 資料 No.70(2) 第69回 保守管理検討会 議事録（案）
- 資料 No.70(2)-参考1 第3回 JEAG4803 方針検討タスク 議事録（案）
- 資料 No.70(2)-参考2 第49回 運転・保守分科会議事録（案）
- 資料 No.70(2)-参考3 第4回 JEAG4803 方針検討タスク 議事録（案）
- 資料 No.70(3)-1 JEAC4209/JEAG4210-2021 改定に向けた検討の経緯
- 資料 No.70(3)-2 規格委員会他コメントを受けた規定/指針の改定検討箇所の整理（案）確認結果について
- 資料 No.70(3)-2 資料 No.70(3)-2 規格委員会他コメントを受けた規定/指針の改定検討箇所の整理（案）
- 資料 No.70(3)-参考1 JEAC4209/JEAG4210 次回改定に向けた検討課題(案)について
- 資料 No.70(3)-参考2 JEAC4209/JEAG4210 の今後の改定方針について
- 資料 No.70(3)-参考3 規格委員会他コメントを受けた規定/指針の改定検討箇所の整理（案）
- 資料 No.70(3)-参考4 【纏め】保守管理検討会 対応方針について
- 資料 No.70(4)-1-1 【纏め】JEAG4803 に対する運転保守分科会での議論を踏まえた対応について
- 資料 No.70(4)-1-2 「JEAG4803-1999 軽水型原子力発電所の運転保守指針」廃止のための検討会の設置について
- 資料 No.70(4)-1-3 「JEAG4803-1999 軽水型原子力発電所の運転保守指針」廃止のための検討会の設置に関する書面審議の結果について
- 資料 No.70(4)-2-1 【纏め】JEAG4803 の他規格への反映要否について（アンケート）r1
- 資料 No.70(5)-1 情報共有：【LTO タスク 2】第2回（第1回勉強会）参加者募集のお願い（メール）
- 資料 No.70(5)-参考1 日本原子力学会 標準委員会 システム安全専門部会長期運転体系検討タスクのフェーズ2
- 資料 No.70(5)-参考2 標準委員会 システム安全専門部会「長期運転体系検討タスク」への参加協力について